

JK戦士無様に敗北!

起き抜け

BADモーニング



2

Arion Canvas

「私たちがキュアモーニンググスは校長先生の熱心なご指導のもと殿方を満足させるための無様な奴隷に堕とされてしまいました♡」

あはあ♡



「多々のおじさまに」愛されたい性技のヒロインキキアハピネス
「と賀止はじめです♡」
「いつもおじさま方の熱い吐息を感じながら集団レイプされたい
妄想少女から校長先生の指導方針をご報告させて頂きます♡」

あはあ♡

グワグワグワッ



「あああん♡」
「思ひ届いただけでアクマ
♡おはよう♡」

ズズズズ



女の子だとして気持ちのいい所いじめるの大好き♡

「うずまきます校長先生に初めて
愛して頂いた時の快感♡」



「私の盗撮写真真?」
「うてあれ校長先生。」



「校長先生じゃないですか!」
「どこかだんですかこん所で。」



سجده!



「なななによろー!」

「コレッ!」

「確かに私のスカートの中です!」

「いつの間にか?」



「この盗撮カメラはね自い布を
透かしたりするみたいですよ。」

ムムム！

「何よこれほー!」
「アソ」が丸見えじゃない!」
「許せないこんなの!」

ゾクッ!



女の子だとして気持ちのいい所いじめるの大好き♡

「ほらこんなふうに透かす事が出来るんだ！」



「きゅあもももも〜」
「まろかーごうごうで校長先生が犯人？」
「ふんごうなむなむな〜」

「はじめちゃんのブラスジャーが学園に落ちてたから届けてあげようと思ったんだけど想像以上の大ききだったからもももで近くで撮影したくてね♥」



「先生普通じゃない!」
「自分の犯罪を私に見せて何を考えているの?」

「JK」になって随分オツパイ成長したんだね♥
「母乳は垂れたりしないの?」
「年中正月ボケのキョウアハピネスちゃんは!」



「どうして私がキュアハピネスだってわかったの？」
「いや始めから私がねらいでこんなことを！」
「許せない！」

「今この瞬間も裸を撮影してゐるなんて
信じておなさい！」

ムカッ





ムカッ
ムカッ

「こんな変態オヤジが教職としていらてるなんて
ありえないわー!」
「じゃあ私が退治してあげますー!」



カチャッ

キラッ

キラッキラッ!



「年の計は石の上なり！」
「みんな嬉しいお正月ー！」
「酒は憂いの糸はほほはき暗い命も晴れやかだー！」
「キラアハピネス〜」と上手ー！」

しゅわあぁあぁん！

「人はみな生まれた時は綺麗な命♡」
「先生の歪んだ命を矯正してあげます。」

しゅわあああん!



キュアアアア!



「あ、あれ?」
「意識があるのに体が動かない!」

「おはようございます！」



ダンダン
ドゥドゥドゥドゥ!

「これはなあキウアオータムの強力な稲妻とキウアウィンターの激しい冷却を組み合わせた超伝導を利用した時間停止効果だ！」
「年中正月ホケのキウアムネスには理解出来ないだろうかな♡」
「0.1秒だけ時間を停止出来るんだ十分だろうっ？0.1秒でも動きを封じることができれば！」

「はははは♡」
「矯正せんのはお前の方なんだよ！」
「これからは俺のオナペッドになねるよっ」
「厳しく教育してやるからな♡」



#なん

「そのおっぱいは肥大化させて
遊ぼっせ♡」
「恥ずかしくて外を歩けない
♡おっぱい♡」



↑↑↑↑↑↑↑

クエービー

俺は気絶したキウアハピネスを抱えて道路脇の
茂みで楽しむことになった♥

がさわ

がさわ

「うひょおおー!」
「これがハピネスのスカートの中身かあ♥」
「大切な場所が透けて見えるぜー!」

ムフッ♥

「うひゃはは、愛撫もしてない
オマ○コにチン入開始であります」
「お前の膣内を俺の子○コ形状に
してやるよ！一生治らないかもな」

うひゃり♡

びびり！

「おうほうほういいいねえ！」
「いい具合だぞキュアハピネス♡」
「まるで盆と暮れと正月が一緒に
きたみたいなの高揚感だぜ♡」

「おおっこれは失敬！」
「あんまり気持ちがいいもんで
「我慢出来ずに出ちやっただよ♡」
「妊娠しちやっただかな？」

ぶしゅああっ！

「素っ裸にひん剥いて
やっただぜ♥」
「気がついたときには
薬で肥大したパイオツ
を見てどんな顔で悲鳴
をあげるのかな？」
「悲壮感漂う無様な顔を
早くみたいぜ！」

ジュジュッ

ぐちゃあ





じゅる

「キュアハピネスちゃんの乳首はどんな味がするのかな？」
「じゅるるっ！」
「うん♡うまい！粒が大きくてみずみずしいアセロラの甘酸っぱい味がする♡」



「うーん！これは辛抱たまらん♡」
「かぼりついてしまえ！」「かぼっ！」
「くひひひっ極上のおっぱいですな♡」

かぼっ♡

えんえん

「おいおい呑気に寝てる場合かキユアハ
ピネスちゃんよお！」
俺は乳首を血が出そうな程の力を顎に込
めて乳首の根元にかじりついた。

あぐっ！

がぎろっ！



「おっぱいもつきたてのお餅みたいで
ハリがあつてほかほかでもみ心地最高
だぜ♡」

あぐっ！

はうっうん！

かぼっ♡





あぐっ！
はっはっはっはっ！

ぐんぐんぐん



はあ？

はっはっはっ！

うまうま♡

えんえん

「おう！ほうほうやっと思覚めたか！」
「もう手遅れだがな！」
「ふひひひひひ♡」

はっ？
どうして私……





「きゃああつー!」
「なによこの恰好!」
「なにこの風船みたいな大きなオツパイは!」

きゃああつー!

かぼつ♡

えんえん

「いったいどうなってるの？」
「こんなの私のオツパじゃない！」
「でも、ピンピンに気持ちいいわ！」

はっ？
どうして私……

かぼっ♡
かぼっ♡

えんえん



「非道いわ!」
「こんな非道すぎる!」
「胸が熱くなつてきつてる何か熱いもの
が込み上げてる。」

んんんんん

んんんんん

むぎゆり!

「これぐらいで悲しんでいる
場合じゃないぞただデカイだ
けじゃないぜ牛オシナ!」

「ええっ?」
「母乳が出てるなんてっ!」
「妊娠もしてないのに!」母が叫ぶ!」

ぎゃああ!」

ぶしゅんんんん!」

うまうま♥

えんえん

「おうほう♥これはこれは牛乳とは
また違ったあじですねえ!」
「生温かくて豆乳のような味ですか
な♥うひひひひ!」

「こんなオツパイにされて人前で
歩けないよ!」
「惨めだわこんなの!」

んんんんん

うまうま

んんんんん

「心配しなくてもいいよ僕に
絶対服従の奴隷になるなら元の
オツパイにもどしてあげるよ!」

「本当に元に戻してくれらるなら
奴隷でもなんでもする。」
「キュアモーンシングスを辞めて
パッドモーンシングスになるよ!」

うんうん……

本当に戻せるの?

じゆんじゆん

「当り前だろうこれからお前の
体を徹底的に凌辱して羞恥に震
える姿を映像として永遠に残し
て置きたいのでね♡」

「分かったわ♡」
「それでどうすればいいんですか校長先生？」
「3回周ってわんっ！って鳴けばいいのかな？」

うん♡

「それもおもしろいな！」
「でも今回は牝牛ってことで自分で乳首をしこりながら牝牛の気持ちになっって母乳噴射オナニーをしながらの奴隷宣言ってことで♡」

巨乳少女は乳首をいじりながらのオナニーが大好き♡

あっけなくも正義のヒロインキュアハピネスは死んだ。
そこにいるのは、無様な巨乳オツパイをかざしながら俺
に絶対服従の忠誠を誓う惨めな牝牛奴隷バッドハピネス
だった。

彼女は、俺の機嫌をそこねぬよう様子をうかがいながら
俺に乳首を向けてシコシコと再び母乳が出るようにシコ
リはじめた。
いちるの希望なのか表情は明るかった。

「これでいいのかな校長先生？」
「奴隷宣言して母乳を噴き出したら
ホントに元に戻して下さいね！」

はうっんんんん！

シムンク

シムンク

ゞゞゞ

ゞゞゞ



「私、キュアハピネスこと賀正はじめは
校長先生の熱血指導に感銘を受けました。
「これから校長先生のご命令に全て従います。
どんな恥ずかしい行為も進んで受け入れます。」

あん♡
あん♡

なんだか切なくて
乳首がシンシンして
気持ちいいよお♡

シンシンコ

シンシンコ

♡♡♡

♡♡♡



あひい♡

「もろもろ最高」♡

「先生が責任とってってくれるなら私このまま
でもいいかも♡」
「みんなにこんな大きいオツパイ見られた
らどんな気持ちになるんだろっ？乳首もア
ソコもジンジンするんだろっなあ♡」

あはあ♡

ねえ先生♡



「ふはははっそれもいいがお前には
忠誠の証として親友を畏にハメても
らう仕事がある。」
「ほれ乳首を差し出せ元に戻してやる。」

はーい♡



オナニー大好きっ子のパンティエイいつもヌレヌレ

「本当に元に戻った♡」
「ありがとう校長先生！」
「でも親友を罵にハメるなんて出来ないわ。」
「それよりも私にいつぱい気持ちいいことし
ていいよ♡」

きやは♡



「甘ったれるな！」

「お前は奴隷だぞおれの愛人でも恋人でもましてやペットでもないご主人様に絶対服従の無様な鑑賞用羞恥オナニー奴隷なんだよ！」

「ごめんなさい……」

「ヒクッ」

「お前にはコレを穿いてもらう俺の許しなしに
穿き替えるのは禁止だ！」
「シミのついた臭いパンティのままですー！」



「精液と母乳で濡れてシャツが透けて見えるな。」
「どうだローターパンティの穿き心地は？」

ううう……

「クリ○リスにかっちのフィットしてもう一個
はお尻の穴にこっぽり入って変な感じですよ。」



「どれ見せて見るなんだもう濡れてんじやねえか。」
「この△ワツとくるエロ臭い匂い♡」
「うーんかぐわしいな！」

じゅん

じゅん

「先生！吐息がお股に伝わってなんだか
やっぱり慣れなくて恥ずかしいです。」

△ン△ン♡

「ちよつと先生やだー!」
「ローターのスイッチ入れないで下さいー!」

あぐっ!

.....

ヴィイイツ

ウツン
ウツン



グ
イ
イ
イ
ツ

フ
フ
フ
フ



「今からお前は、バレエ部のロッカーからなつみのコンパクトを盗んで来い!」
「それと練習後に校長室に来るように言っています。」
「返事は?」

あひい♡

「はうっ!はうあう!」
「分かりましたなつみの変身コンパクトを奪ってきます。」

ヴィイイイツ

ウアイン
ウアイン



はっはっ!

べしやあつ

びびゅ!

ヴィイイイツ

フインフイン

「おいおいもうパンティ濡らしちゃったのかよ!」
「たった一週間でもそうとう臭いパンティになるだ
ろうな! クラスメイトにすぐ気づかれてしまっんじや
ないのか?」

「びちゃびちゃして気持ち悪いよう。」
「お願い先生! 先生の言うこと全部聞く
から穿き替えさせて!」

んんんん

ヴィィィイツ

じゅん
じゅん

ウァァァン



「しようがないならうまくやれば穿き替えさせてやる
しっかりこなせよ!」

はあ
はあ

「必ず成功させます。」
「それとローターを止めてくれてありがとう
うございますこれで任務に集中できます。」



明るい娘はオナペット
奴隷の経験あり

校舎裏の体育館

「親友をハメるなんて気が引けるなあ」
「私が転校して来て初めて友達になつてくれたなつみちゃん。」
「そういえばその一年前に関西方面から引っ越してきたはずどうしてなのかな？」

「あーん！まだ股間がにちやにちやして気持ちわるよお。」
「早く着替えないとオナニーしたくなっちゃうー！」
「えーっ」と
「バレー部は体育館で練習してるはず……。」

「にちやにちや」



「この向こう側からこうそりバレエ部のロッカー室
に忍び込めばうまくいくはず……」

かざり



「ここがバレー部のロッカー室かあ。」
「案外整理されてて綺麗な部室なんだ。」



「なつみちゃんのロッカーはここかな?」

「あつたわー!」
「キュアサマーの変身コンパクト!」

かちゅ



「ごめんなさいなつみちゃん！」
「私、奴隷なの校長先生に絶対服従なの！」

がさ
ーがさ

「あれー!」
「はじめちゃんやんめずらしいなあこん
な所でなにしてるん?」
「さては、ウチの下着を盗みにきたんや
なあ!」

よお!



「もうあかんでえー！」
「ウチの下着盗まれてしもうたんやあ」
「ノーブラノーパンで練習したんやけど」
「乳首がすれてピンピンになってもうてな！」

アハアハ



「なんや全然ウケへんやん親友ならこゝは
突っ込む所やでえ！」
「なんや表情固いで！なんかあったん？」
「えっ？校長先生が呼んでるって？」

「わかったよ！」
「練習が終わったら校長室に行ってくるわ！」



「なに苦しそうな顔してんだよ!」
「俺のチ○ポがしゃぶれるんだもって
嬉しそうな顔をしろ!」

そないなこと言うたかて
息が出来へんのやもん無
理いいすぎやあ!

じゅぽん
じゅぽん

はっはっはっ
.....



「しかしなつみは無様なのがホントに
様になつてているな！」
「ほかの連中はキュアモーンツグスを
続けても支障がないと思うが、お前は
やめる！完全に俺のペットに成り下が
ってしまえ！」

非道いよ！
ウチかて自分がマツなの隠して
キュアモーンツグスやってた事
には気が引けてるけどなにもそ
こまで言うことないやんか！

じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ

うううっ...



「いいななつみ!」
「これは俺からのキュアサマー死亡
の祝砲だ喜んで受け止める!」

じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ

うううっ...



ばっ!ばっ!

あゝ
ひん



「そつたなペット用の新たな名前が
必要だなタープ菰窪にはなんて呼ば
れていったんだ？」

赤毛のペンスです。。。。

いぐ

いぐいぐいぐいぐ



はあ
はあ
はあ

。。。。

べっぴんちゅり。。。。

「そりだななつみにびったりのペショ
名はマソのなつみでマソミにするか、
それとも赤毛のペスにするか。。。。」
「どっちがいい？」



はあ
はあ
はあ

。。。。

ペスでお願いします。。。。



ホソマに骨の髄までマツが板についてるんやなウチ。また新たなご主人様にペットとして飼われるんやな。そそろがないようにせなあかんな。

べっちより

青臭いような塩気のあるイカ臭い匂いがマツペットのウチには心地ええでえ！
ウチはこの匂い嗅いでもうたらもうあかんねん！とにかくアソコにハメ込んでもらいたくなうてしやあないねん♡

んんんんん
。。。。

「そっうだなメス犬ペスちやんの
オ○ソコがどんなものか味見し
てみるか♡」

あはん♡

ずぼっ!



熱いつつ！

校長先生のチ○ポ物凄く硬い！
硬くて大きくて物凄く熱い！
まるで熱せられた鉛の棒をずん
ずんと突っ込まれてるみたい！

はうん♡

あうん♡

あはん♡



「これはタープ菽窪が探し続けるはずだ!」
「俺のチ○コを人肌に温められたマシユマロ
の中に包こまれていゝみたいだ♡」

「はうん♡」
「あはーん♡あうーん♡」



ふん

ぱん

ぱん

うげん、
マツの血が
。。。。

は
は

は
は

は
は

は
は

ドク

ドク

X

ドク



感じる♡感じるわあ
ピンピン感じる！

はー！♡...

はー！♡...

ドク

サキ

はー！♡

はー！♡

X

ドク



ウチ幸せやあ♡
こんな極太で鉛のような
チ○ポを持つ主人に飼わ
れるなんて♡

はーっ♡

はーっ♡

はーっ♡

はーっ♡

ドク

オキョ

ドク



あかんウチもうイヤって
しまいでうや!

はー...♡

はー...♡

ドク

ドク

はー...♡

はー...♡

X

ドク

あー♡



みんなゴメン！
ウチは正義よりのチ○コ取るわ！

はー！……♡

はー！……♡

はー！……♡

はー！……♡

ゴメン

ゴメン

X

ゴメン



生徒会室

「ひゃーっ!」
「こないに目が暮れてもったな。」
「しっかしめすらいな生徒会室の横に校長室があるなんて。」

「そついえば最近校長先生が変わったって言う
とったななんか評判悪いみたいやけど。」



生徒会室

「校長先生いらっしやいますか?」

おい!



徒会室

「はい！待ってましたよなつみちゃん。」
「さあお入りなさい大切なお話があります。」

「はい！なつみはいます。」



「失礼します。」
「って校長先生おれへんやん！」
「どこにいてんの？」

「いちぢらですよノーブラノーパンの
なつみちゃん！」



「ウチがノーブラやってなんで知ってるんや?」
「それに先生なんやその格好!」



ズクン

ゴオオオツ

「なんで素っ裸なん校長先生？」
「ウチ帰ります！」

「まあ帰る前にこの写真がなつみちゃん
かどうか確認してからにしてください。」

「これは！」
「転校前の私！」
「どうして校長先生がコレを！」
「すべて削除したはず！」

ぎゃあっ！

「どうやらその表情は本人な
んだなこの写真は。」
「俺の友人が4年前にペット
が逃げ出して、いまだに探し
てるって言うててね。」



ぶわっ

「もう全て終わりにしたはず!」
「校長先生あんたまさかタープ荻窪
と知り合いなの?」
「なんでそんなやつが校長先生なん
てやってるの!」
「早くみんなに知らせないと大変な
ことになってしまう!」



「まあ落ち着ちつけよなつみ！」
「この写真をみるかぎり随分非道い
調教を受けているみたいだな。」
「タープ菰窪は親友だが俺でも目に
余る残酷な一面があるからな。」
「あいつは関西方面に住んでいるか
らここから距離がある。」
「俺に従えば通報はしないぞ！」



「結局また奴隷になんねんな!」
「たしかにウチはいつつも乳首ピンピン
で性欲も人一倍やけど好きな人と楽しみたいのに!」
「いつつも脂ぎったハゲのおっさんの奴隷にならな
あかんの?」



うんうん……

「おいっ!」
「いつまで待たせるんだ返事は!」

「はいっ!ただいま!」
「申し訳ありませんなつみも全裸になります!」



「乳首ピンピンだないつでもハメれる状態なのか？」

ああっ

「はいいついつでも生ハメ出来るようにターゲット到達に仕込まれました。」

ピンピン



「いついかなる時はどうなるようにと教育され
たんだ?」



「フェラチオです!」
「殿方のイチモツに勃起していただきワチのクサシ
マ○コにぶち込みやすくします。」

「ほう♡」
「自らフェラしやすいように
ヒザまずくとは素晴らしい仕
込まれようだな！」

「体が勝手に反応してしまってるやんか！」
「ちやうねん！」
「ウチはもう忘れてもうとったのに体に刻みこまれて
るんや！」

すざびっ



なにやっつてんねんウチ！
ウチはもうあの頃のウチやないんや！
正義のヒロインキュアサマーなんや！
無様で卑しい変態奴隷ちやうねん！



。。。。

「ほれ！牝豚なつみちゃん
の大好物ですよ♡」
「まずはペロペロして貰♡」

ガシツ！

心の奥の奥まで刻み込まれた快樂の
記憶は簡単には消えない。
呼び覚まされた強烈な快感がなつみ
の理性という堤防を破壊してなだれ
込もうとしている。

ずん

しっ臭い！



「おいおい吐くんじゃねえぞ！」
「この臭いのがいいんだろなつみ！」
「人を楽しませるとかいいながら芯
の部分はド変態のマゾなんだもんな！」

はっはっはっはっ……

ぺたっ
ぺたっ

じゅる
ぷちゅ

ホンマの事やから逆らいようが
ないやん！
そやねんウチこの吐きそうにな
るぐらい臭いのがエエねん♡
そういうふうに徹底的に仕込まれ
たんやもんしゃあないやんか！

この頭を押さえつけられてるんが
虐げられてるみたいで乳首ピンピン
に尖ってジーンと体の奥に針のよう
なものが入ってくるみたいや♥
さすが校長先生やなウチの弱点完璧
に見抜いてるで！

じゅる
ぱちや

ペロ
ペロ
ッ
ッ



「よし今度はしゃぶるんだー」
「歯をたてるんじゃないぞ！」

はがっあががっ

ずぶっ!



くっ苦しい!
チ○ポが喉の奥に詰まって
息が出来ない!

いひひ
♡

じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ

いぐっ
あがっ
いぐっ



「それ中出しだ!」
「どうだろうれしいか♡」

はー♡
はー♡

んん

ゼー♡
ゼー♡

どろ♡

「うれしいです♡」
「ウチは一生成長先生に
ついていきます♡」



「このたびはペスのメ
ス犬マ○コのご使用あ
りがとうございます。
これからもペスは年中
発情して乳首ピンピン
にしてお待ちしており
ます♡」

はー♡♡

はー♡♡

はー♡♡♡

はー♡♡♡

はー♡♡♡



なつみのオ○ンコの心地よさに酷使しているチ○コの表面部分が赤くなつて神経に刺すようなピリピリとした痛みも心地よく感じた。

あのお笑い好きのなつみが関西時代にペットにされていたなんてな。

ホント笑い話だぜ！

あのマシユマロのような膣内のチ○コを締める感覚を一度味わつてしまつたとあれ無しでは生きていけなくなるぐらい中毒性の高い極上オ○ンコだ。

ターフ荻窪が未だに搜索している気持ちは良くわかる。ペットにして陵辱しているつもりが、逃げられてしまえばあの快感を求めさまよう地獄の苦しみを味わっているに違いない。ターフ荻窪は関西在住の親友だが、俺とてなつみを手放せない。

当分は俺がなつみをメス犬ペスとして飼つておいてやる。ぐひひひひっ！

可愛い女子は強引に攻めてくる男性に異常に弱い♡



目もとつぷり暮れるころ俺はラブホテル近くの公園で俺の花嫁候補秋風弥生の花嫁修業ならぬ花嫁調教に精をだしていた。

使いすぎのチ○コが痛いからと手を抜きはしないのである。俺は確かにハゲでデブだが、下半身はタツパもルツクスも生き様さえもイケメンなのである。

一切に妥協のない変態エロオヤジであり続ける。

それが、陵辱調教している彼女達へのケツメであると信じたい。

「よお！弥生。」
「よく抜け出せたなさしずめ友達
の家にも勉強会で泊るんでも言
ったのかそれとも。。。」

ううっ...



「いじわるだわ！私ん家ほとんど
お母さんしか居ないの知ってるくせに！」
「今日はお母さんが帰ってこないだけ！」

「きょうは気兼ねなく愛しあえるな♡」
「俺の花嫁修業も兼ねてたっぷりと
その体に俺の精液の味を刻みつけてやる!」
「明日はラブホテルから登校だな!」

ふんっ!



「残念ね制服でラブホには入れないわ!」

このラブホはどうしようか俺の自由なのだが
おもしろいので弥生の談話に乗ってみるこ
とにした。



「何度、私の体をもて遊んでも私の
心までは奪えないわ！」

「おおっ確かにそうだな！」
「ではここで制服を脱いでただの
露出狂の変態さんになりなさい。」

へっ？



「どんなに恥をかかされても屈しない
心の強い弥生ちゃんなら出来るよな！
そんな事ぐらい！」

「早くしろこのポケがっ！」
「自分の吐いた言動に責任持てよ！」
「てめえ正義のヒロインキョアオータム
なんたる！」

ひっ!



「カツ」ばかりつけやがって少しは
意地を見せてみる！」
「まあ臆病者の弥生ちゃんには無理な
はなしかな！」

はいっ!



「バカにしないで脱げばいいいでしょ!
脱げば!」
「どおって事ないわそんな事!」

はいっ!



「文句は大アリだよ俺の指定した下着を
穿いてないじゃないか!」
「気に入らないな下着も全部脱げ!」

「これで文句無いでしょ!」
「偽物の校長先生!」
「でも、いいのかしら?」
「いくらラブホでも校長先生がこんな
事やってるなんて問題になるんじゃないかしら!」

「そんな！こんな所で全裸だなんて！」
「指定した下着を付けなかった事は謝りますか
らせてこの格好でラブホに入れさせて下さい！」
「お願いします！」

ううっ...



「全くその煮え切らない態度といい覚悟の無さといいあきれるな。」
「俺が脱げと言ったらどんな場所でも脱ぐんだ例えそれで自分が破滅してでもだ！」

「いいか弥生！俺の指定した下着を穿いで
来ない限りのいいかなる場所であつても没収する
からな覚悟しておけ！」
「返事は！」

きゃあつ！



こんな場所で下着まで強引に剥ぎ取るなんて
私を辱めて楽しんでいるのね！
「ごめんんさいっ！もう逆らったりしません
だからせめてラブホで誰にも見られない場所で
辱めてください！」

「いーやダメだ！」
「お前には俺の奴隷妻としての認識に欠如
している！今回はその自覚を促す為に
オ○ン○コ上部にタトウーを入れてやる！」
「お前が俺から逃れることが出来ないように
キツチリとな！」

ううっ...

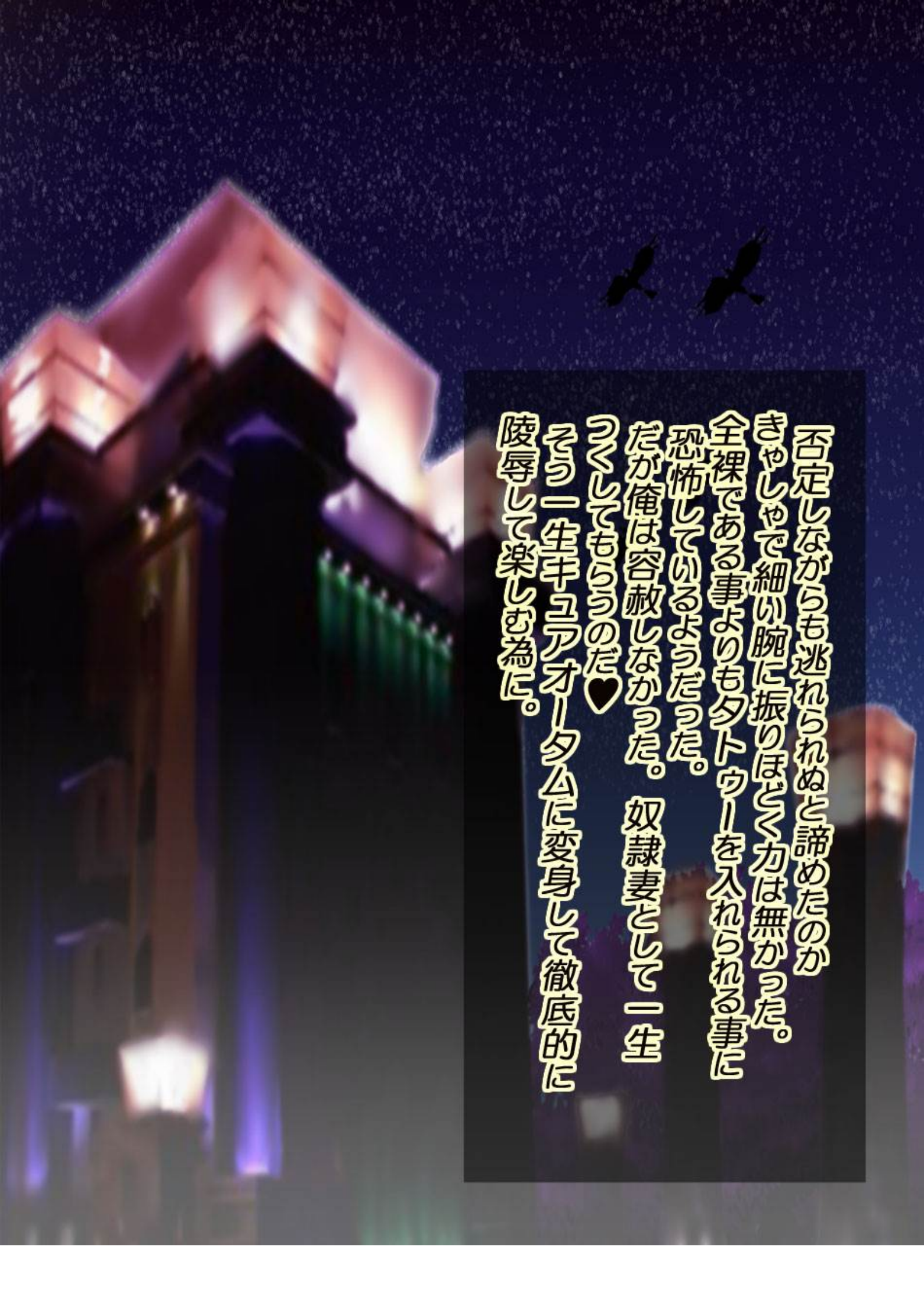


「そんなの卑怯よ！」
「確かにどんなにカラダはけがされてもって
言ったけど入れ墨なんて非道すぎる！」
「そんなの嫌だ！お願いよおそれだけは勘弁
して！」

ひっ!



「ひっなに？」
「なんなの？」
「強引に連れて行かないで！」
「なんとか言ってよ校長先生！」



否定しながらも逃れられぬと諦めたのか
きゃしゃで細い腕に振りほどく力は無かった。
全裸である事よりも夕トウーを入られる事に
恐怖しているようだった。
だが俺は容赦しなかった。 奴隷妻として一生
つくしてもらおうのだ♡
そう一生キユアオータムに変身して徹底的に
陵辱して楽しむ為に。

弥生は少数の通行人に全裸を見られ体が
真っ赤に燃えるように赤くなっていた。
実際心の中も恥辱の炎に焼き尽くされて
いるだろう。
弥生は逆らう事なく部屋へ入った。

ううっ...



「お願いオ●ンコを強欲な欲望でいくらでも汚しても構わないわ!」
「でもタトゥーだけは辞めてください!」

「何度も言わせるな！」
「普通の状態ではあまりの痛さに耐えられな
いだろうからせめて変身しておけ。」

へっ？

「そんな変身だなんて……」



「これからお前の体も心も徹底的に愛して、
愛し抜いて、骨のズイまで愛しきってやる♥」
「一人の女としてこんなに愛されるなんて幸せ
なことだぞ！」

へっ？



「そうなのかな？」
「それが女の幸せなのかな？」

「黄金に輝く銀杏並木
は、運河の如く！」
「さっそうと吹き抜ける
秋風があなたの心を
清めます！」

「キュアオータム
セットイン！」





ぎゅるるるるん!



しゅぽおおおん!





びゅうらうらうらうん!



変身

完了!





バーゲンセール開催中!

みんな大好き
お祭り!

「変身が済んだらそこに横になれ！」
「俺の奴隷妻の証を彫り込んでやる。」
」

ううっ...

「ぬははっ!」
「似合うじゃないか♥」
「これで浮気の心配はないな。」
「もう俺からは逃れられんぞ!」



あああつ...

「最低よ！こんな姿誰にも
見せられないわ！」



ううっ...

「俺の奴隷妻として在学中に妊娠してもらおう。」
「これからは寝ても覚めても種付けファックだ！」
「さあ自ら子種が欲しいとおねだりしろ♥」
「むふふふ♥」

のしっ

「悔しいけど、従うわ・・・」
「良き妻であり母になれるように
子宮の中に精液をどっぴり注いで
ください。」



「覚悟は出来たみたいだな！」
「心配するな世界で一番幸せな年中快樂漬けの
女にしてやる！」





「あぐっ熱い！」
「それに大きくて重い！」
「やっぱり私には先生のお●んちん
大きすぎてなじめないわ！」

ぽんぽん

ちんぽ

ガセ

ガセ

ぽん

ぽん



うぐぐっ...

俺は乱暴に腰をスライドさせずゆっくと
キョアオータムに呼吸を合わせるように優しく
さらに優しく時折り子宮をツンツンと付きつつ
腔内に俺にイチモツをなじませていった。

ぽんぽん

ガセ

ガセ

ぽん

ぽん

ズンズン



「なんで？なんでこんな？」
「鉛のように重くて硬いものが大蛇
のようにゆっくりのたうってるのに
気持ち良くなって来てる。♡」

おん♡

ぽんぽん

ズ
キ

グセ

サキヤン

ぽん

ぽん



「いやっ♥嫌なのに気持ちいい♥」
「これだけ大きいものに馴染むな
んて私の身体もう先生なしじゃ生
きて行けなくなっちゃう。」

おん

ぽん

ズ
キ

ガセ

サキヤン

ぽん

ぽん



「感じるよお♥先生のどす黒い欲望が私
の中を支配してきている♥」
「ク●トリスがピリピリしてピンピン
感じてる♥」

おん♥

あふ

ク●トリス

ガセ

ピチピチ

ピン

ピン





はは
はは
はは

はは
はは

はは
はは

はは

はは

はは

「これって完全に妊娠してる！私先生に
征服されちゃった♡」
「心地良すぎてアクメ決めちゃいまし
たあー♡」

は♡♡♡

は♡♡♡

は♡♡♡

は♡♡♡

は♡♡♡



もう逃げられない！頭ではイケない事だって
分かってるけど先生にセックスや恥辱行為を求
められたらきつと逆らえない♡
いえっ！ワザと逆らって非道いことされたい♡



変身が解けちゃった……。..
また変身できるか心配だわ！
変身しない私を先生は陵辱してくれるかしら？



「今日は種付けして頂いてありがとうございます。」
「ステキな入れ墨を入れて頂き校長先生の所有物として
自覚できました。」
「弥生は良き奴隷妻になれるよう精進してまいります。」

「これからもその自覚をわすれるなよ！」
「常に俺の視線を気にしておけよ！」
「恥辱調教欲しさに逆らうのもありかな♥」
「それはそれでたうぷりかわがってやるよ♥」



見透かされてる・・・
私、ワザと逆らってみんなの前でこの刺青
を公表したがってる♡辱めを受けて乳首もアソコも
ピリピリする極上の快感を欲しがってる♡



「いつも校長先生の監視の目があることを
肝に銘じておきます。」

「なかなか素直で宜しい♡」
「さあ2回戦いくぞーベッドに横になれ！」



「えっ！まだセックスするんですか？」
「今日はもう許して私もうヘトヘトです！」

「これからお前は俺とセックスする事だけ
考えていればいいんだ!」
「何がヘトヘトだ!俺が満足出来るよう
にしっかりとセックスの技術を磨け!」
「あんまりふさげるとツープランドで
働かせるぞ!」



「生意気なこと言っでごめんなさい!」
「未熟な私にどうかご指導ください。。。」
「くだらない事考えられないくらい」
「テンパンに
ハメ倒して下さい。。。」

その後、私は悲鳴をあげお許しを何度も請いながら校長先生の粘っこい愛撫を受けた。

校長先生の強欲で傲慢な性格は私のおっぱいに歯型を付けたりク●トリスを少年のチ●ポ並みにしてみたいで強引に引つ張りあげられたり浣腸されて部屋中にウンコをひり出されたあげくあの大きなイチモツをアナルにまで沈められ4度目のオ●ンコファックの時から意識が朦朧としてしまいだらしないと何度もお尻をぶたれてるあたりで気絶してしまいその後の記憶がありません。校長先生のおっしゃる通り次の日はラブホから登校しましたというよりこの日からここで生活するようになりました。寝ても覚めてもセックス漬けの毎日です。

律儀な優等生はセツクスも努力家♡



チュンチュン



チュンチュン

チチチ...

次の日
早朝午前6時



生徒会室



「おはようございます校長先生。」
「まだいらっしやらないのかしら?」
「今更ながら思うけど生徒会室を抜けて校長室で
入るなんて珍しい学校よね。。。」



カタヤ

「失礼します麗香入ります！」
「やはりいらっしやらないのかしら？」
「他のメンバーの調教にお忙しいのかしら？」

キイツ...

「こちらですよ麗香クン！」
「朝早くにご苦労様です副会长！」
「では、早速モーニング調教を始めますよ！」

「こちらにいらしたんですね校長先生♡」
「早速、早朝奉仕トリーニングの衣装に着替え
ますね。」

あはあ♡



うん
ん♡



「どっつてもセクシーな衣装で身につけているだけでイヤらしい気持ちになりますわ♡」
「私けっこう気に入っています！校長先生はどうですか？」

あはあ♡
うん♡



「どうしても素敵ですよー!」
「みているだけで俺の股間がパンパンに膨れ上がっ
て今すぐいなくても抱きしめたいくらいです♡」
「ASUNOよのちら我儘できねえー!」

「あはあん♡」

「いきなり激しいチュウウー！とっっても男らしくて心が踊りますわ♡」

「もっと激しくして！もっと♡」

「背骨が折れるくらいもっと激しく抱きしめて♡」

あはあ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ジュルッ♡

あはあ♡

「あれえ？なんか体がポカポカしてきます。」
「校長先生なにか口に含んでみましたあ？」

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ジュルッ♡



スツ

あはあ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ジュルッ♡

「このウイスキーはストレートでも飲みやすいようにアルกอฮอล์度数43%にしているんだ。」
「どうだ心地良いか?」
「目がトロロンとくっつくわー!」

「朝からアルゴールだなんて背徳感が身体銃にピンピン響いて腰砕けになっちゃいますっ♡」

あはあ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

「腰砕けとはいい表現だな麗香♡」
「俺にゆっくりと体を預けるんだ
そっか、そっゆっくりと牝犬みたい
に四つん這いになるんだ!」
「いいぞ!可愛いぞ♡それでこそ
俺の麗香だ♡」

ぎゅっ♡

スツ



「あはあ♡べ回を強引に吸いすぎですう♡」
「べ回がちぎれそうですわあ♡」

「あぐう！痛い！痛気持ちいい♡
感じる感じますう校長先生の鉛のような
激アツ鋼鉄チ○ポに全身が貫かれてい
る感じがたまらないですう♡」

オ○ンコを貫かれて痛いのを我慢して
俺に感謝の言葉を述べる献身的な麗香
の態度が余計に俺の股間を刺激して
更に怒張した。金タマにある精子製造機が
太急ぎで生産しているのを感じながら
俺は悦に入っていた。

ズツ





「どうして涙がとめどなく出てくるの？」
「校長先生に調教して頂いて嬉しいハズ
なのに高揚して嬉しい気持ちと今までの
自分がとんとん書き換えられていくみたい
なのが怖いのかしら？」
「確実に昨日とは違う新しい淫乱な自分
に戸惑っているの？」



おん♡

麗香はかすかに心の奥底にくすぶっている
理性と膣内で暴れまわる快感の狭間を行
ったり来たりしているようだな♡
もうじき自分を律していた理性がニミリ
も残らないくらい淫らな娼婦に作り替えて
やるよ♡





はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ

自分の中のなにもかにもが溶かされていく。。。自分は何者なのか分からなくなっていくただひたすらに自分の正義感を疑わなかったのにこんなにも脆いなんて無様だわ無様すぎて心の底にある何か私に意思に反してうごめき出して止められない♡

「消えていく自分の中の倫理が秩序や常識が、快樂という名の快感のハチミツのよう……もう気持ちいいのを我慢出来ない♡」

おん♡


は♡ は♡ は♡ は♡

プシャアアアッ!

「うひよほほ♡」
「快感を通り越して放尿ですか♡」
「おやっ！母乳まで噴き出していますね妊娠したのかそれとも……」
「とっってもいい傾向だぞ！もっと自分に正直になっただけいいぞ麗香♡」

パンチ
サキツ

ぴゅっ♡
くちゅっ♡
れゅっ♡
ちゅる♡



「きひひひひひひっ！放尿最高」
「おしっこ漏らすのってこんなに開放感があって頭の中がキラキラしてる♡」
「来てる！感じますわ先生の怒張を出してください！私のオ○ン」
たっぴりの精液ぶちまけてください♡

あはあ♡

ジュルッ♡

「先生の精液とタバコ臭い唾液の匂いを感じながら授業に参加致しますわ♡」
「もちろん下着がわりにこのSMスーツを着込んでいますので急にいつでも
麗香を辱めたいらして来てください♡」



はー♡♡

はー♡♡

はー♡♡

はー♡♡

ぴちゃ♡♡

ん♡

ぴちゃ♡♡

ん♡

強引に引っぱがしたSMスーツをさりげなく
また着こなしているあたりのさすが麗香だ♡
優等生だけあって気がきくな♡

快樂に溺れる万年遅刻少女♡

麗香の勉強の熱心さには恐れ入るぜ！ふふふ♡
おつ！あそこにいるのは遅刻の王様はじめちゃん
じゃねえか！今日は早い登校ですな校長として関
心関心♡





「ようっ！早めの登校関心だな！」
「どうした立派な娼婦になれるように猛勉強
でも始めるのかな？」
俺はイヤミを込めて柔らかいはじめのケツを
揉みながら挨拶を交わした。

クイイ...ン

恥ずかしがるはじめを無視してスカート
の中に潜り込む俺！最高の景色♥
俺の指示通り履き続けているのかアクメした
シミが黄ばんで俺好みのオシッコ臭いムレムレ
パンティに俺は満足した♥

ぴち...♥

ぴち...♥

くちゅ♥

くちゅ♥

ムレムレ

よく見るとはじめはアへのすぎて完全にフリリって
んじゃねえか！好みは人それぞれだがアへの顔が
マジっぽくて最高に好きだ♡
「Fujinawaraも早めに登校してくる弥生はどうし
たの？」

「やよいひゃんっ？」
「学校へは見なかったへすよ」
「あひゃっはひっ！」

ムクッ

ウイイ...ッ

くちゅん♡

ぴゅん♡



「よしそのアへ顔最高♥シミの付いたパンティ
は俺が楽しむから今日からコレを付ける♥」
俺が慣れた手つきでササツと紫色のヒモパンティ
にバイブとアナルバイブを装着させた。ゆるゆる
のマ○コもアナルも簡単に挿入できた。

ああんっ♡



「そのまま歩いて行け！」
「夜は例の場所に集合だぞいいなわかったか？」

「さすがにこれじゃあ
バレちゃうー！」

「絶対服従だよな！」

「……はい。」

クワイイ...ン

ピチ...♡
ちんぽ





はじめの間抜け面を拝みながら
楽しみたかったが、ラブホから
早めに登校しているはずの弥生
が学校にいないのが気になった。

俺は一抹の不安を抱えながら
学園を飛び出して弥生を探し
出していた。

刺青入のロリコン少女弥生♡

私は学校へは行く気にはなれなかった。
校長先生の尽きることのない性欲を全身に受け止めて寝させてもらえなかったのです。
もうヘトヘトで公園のベンチにポーゼンと座っている横を人懐っこい猫が横切ると意識は猫に向いてしまい数え切れないくらいハメ込まれてパンパンに腫れているオ○ン○コの痛みが和らぐようです。



「にゃんにゃん♡」
「あはっ触らせてくれるの？優しいねキミは」
「首輪が無いけど飼う猫だね毛並みが柔らかい♡気持ちいい♡」
「いいなキミは悩みが無さそうで。」

おおっ！こんな所にいたか！
夜はコテンパンにハメ倒して眠らせ
なかつたからなヤケになって自殺でも
したんじゃないかと心配したぜ！
遠目で見ても絶望してるふうには見
えないな。今日もたっぷり奴隷妻とし
ての勤めを果たしてもらおうぞ！
胸を撫で下ろすのも束の間
俺の視線は弥生の股間へと向いてい
た。



なんだあつ？また勝手に白いパンティを穿いているじゃないか？
いったい何を考えているんだ？



まったくあきれたやつだ！
これは指導してやらんとな！





弥生に気づかれぬよう回りの込みながら白いパンティイを穿く
許されない股間へと忍びよった。
しかし巨漢のせいかわ猫がびんごうで逃げ出したままだった。



「きやあっー！」
「校長先生どうもごめんなさい！」

「どうしてここにた？じゃない！」
「なんで俺の指定したパンティを穿かないの？」





はうっ

がちゅっ!

「今からその首輪を付けて再調教だ!」

「俺が渡したスケスケパンティはどこへ行った？」

「先生の精液がベチャベチャ
についてるのに穿けないわあんなの！」

ぱさっ



「いつでも愛する日那を感じねるとの俺の
細やかな配慮を台無しにしゃがって二度と
そのパンティを穿けないようにしてやる!」
「おいっ!愛してもらっているという感謝の
言葉は?」

「ぶっぶっぶっぶっ!」
「非道いわ...」
「...私の心が壊れる
くらい愛して頂きありが
とうございます。」

びりりいっ!



「よしよしお前もさっきの猫みたいにしてやるわ。」
「どうよ？なかなか似合うじゃないか！」
「どうだハメ心地は？」

「最高です！」
「猫型のアナルパイプ
とても大きいです！」

ずぼっ!

はうっ♡



「うおーっ♡可愛い♡」
「辛抱たまらん♡」

「あおっー!」
「もう勘弁して下さいー!」
「お尻の穴もハメ倒されて
パンパンにはねあがってる
んですー!」

はうっ♡

ずぼっ!



「うふふふっ♡そんなに私の
事愛してくれているんだすか♡」
「私、もう少し耐えてみます♡」
「お尻の中に槍が刺さったみた
いにいたいですけど気持ち良
なれるようにがんばります♡」

はうっ♡

は♡
は♡

ドク
ダク
ドク
ダク
ドク
ダク



「そんなんっ！これからがんばる
って時にいきなりアナル中出し
だなんて先生の愛情を感じます
うう♡」

はぎゃあ！

は

は

ドモ
ダキョー
ドモ♡
ドモ
ドモ
ドモ



「開放感がとっってもクセにな
りそうですっ♡」



はっ♡
はっ♡
はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

「嬉しいよ♥俺の愛が通じた
みたいだな♥」
「なんだ不満そうだな?」
「なんだ言ってみるよ!」

ううっ...



「先生の巨大な愛情を感じま
した。」
「でも……でも……」

ぴゅんっ…♥

「でもあの下着はお許し下さい
あまりにも精液臭くてクラフスマ
イトに私が陵辱されているって
バレてしまうわ♡」



「バレていんだよ弥生♡」
「恥辱に歪むお前の美しい
姿を俺は見たいんだ♡」
「俺の奴隷妻としてみんなに
自慢したいんだ♡」

ぴゅん♡

「そんなあ……」
「この人歪んでるわ……」
「私が恥辱にまみれているのを
遠目で楽しむなんて……」

「さあ観念して着替える！」



ぴゅんっ……♡

「今日も刺青が眩しいな♡
ああっ本当にあの秋風弥生
が俺の物になるなんて最高に
幸せだ♡」ほ



ほ

ほ

ぴゅんっ♡

「満足でしゅわねっ」

「まずはパンティイからだ♡」
「せつかく精液漬けにしたのに
乾いてきてるな。」
「でも、まあいいや穿いでる
うちにシユクシユクになるだろ
う♡ふひひっ♡♡♡

はっ♡♡

ぴゅっ♡♡

「うっ！臭い！」
「いったい何日前の精液なのかしら？」
「私は女子の体臭フエチなのに・・・」
「こんな中年男性のきつっつい精液の匂い
だなんてたまらなくキツいわ！」



「今度はブラだ♥」
「常に俺の愛情を感じて
いる!」
「わかったか!」



「物凄くイカ臭い匂いがツーンと来るわ!」
「たまらないぐらい男を感じます。」
「蒸れてきたらクラス中にこの匂いが
蔓延するわ!」
「きつと私だってバシちゃう!」

ぴゅん...♥

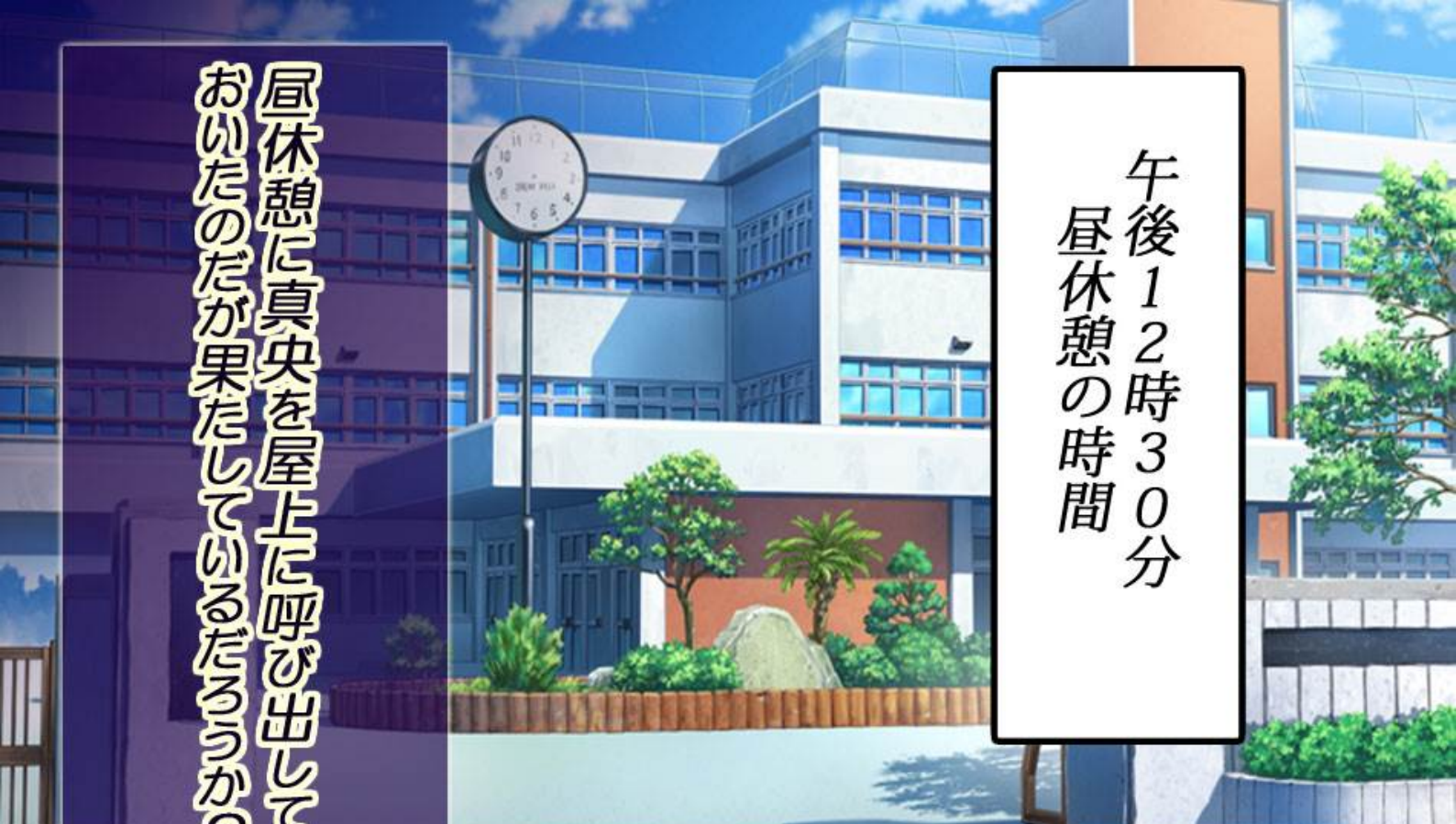
「さあ元気に学校行っ来て来い！」
「溺れる程の快樂を味わっ来て来い！」

ううっ...

「。。。無様だわ。。。」



綺麗な少女の放尿はアートだ♡



午後12時30分
昼休憩の時間

昼休憩に真央を屋上に呼び出して
おいたのだが果たしているだろうか？



カッカッカッ

おっ！いたいた♡
これまた挑発的なポーズで待ってるな
生意気な目付きの子が素直な態度をと
るとそそるなあ♡

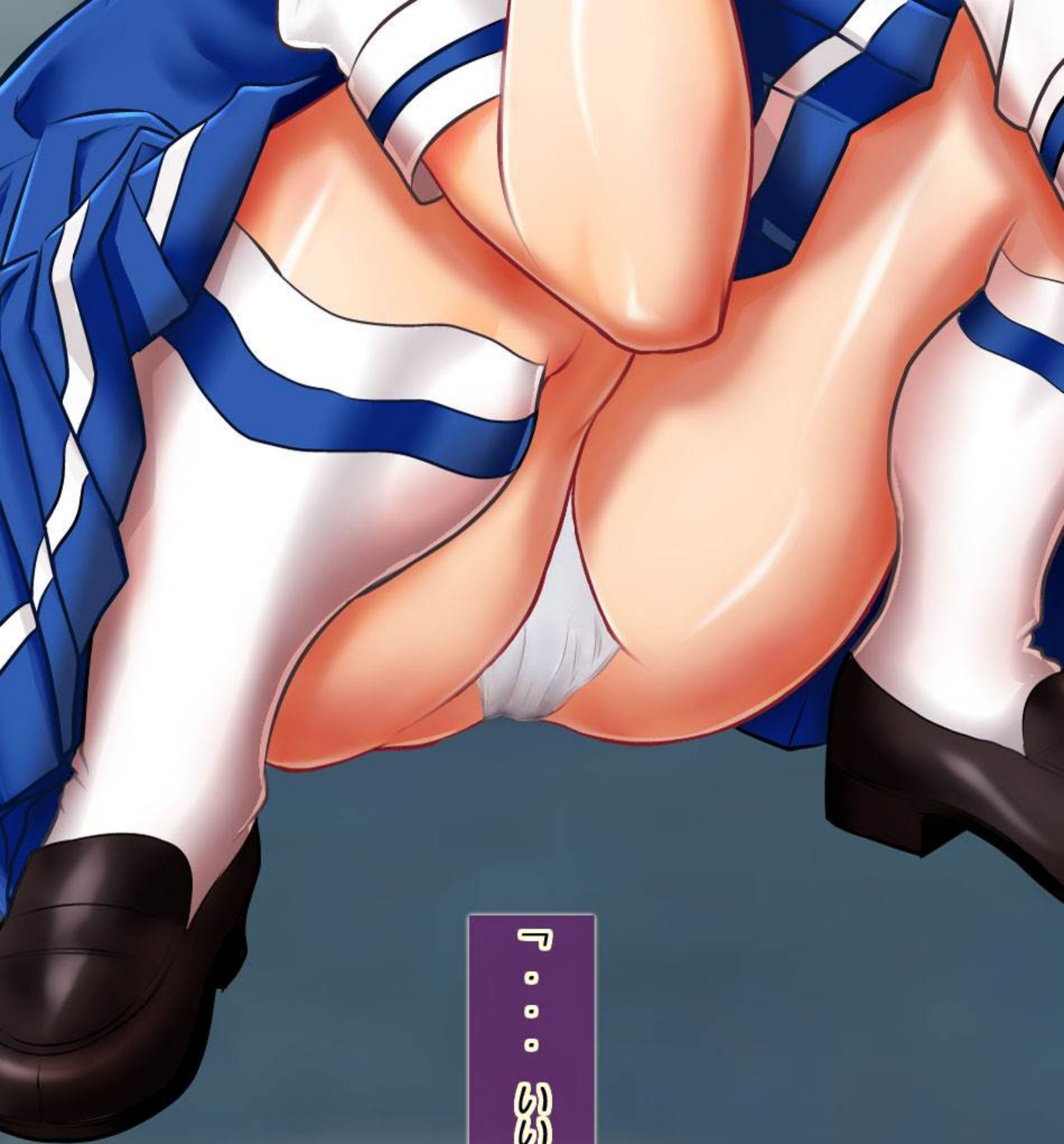


「さすが真央♥分かってるな！」
「お前のそういう所好きだぜ！」



「先生にとっても気持ちいい事
教えて貰ったから♡」
「今度は私が先生に喜んでも
らえるように考えたの♡」
「どうですかこのポーズ？」





『○○○SSSSR』

「じゃーん♥」
「パンティ脱いじゃいました
あ♥」
「先生専用の白いキツめの
クサレマ○コだよ♥」



しゅるりっ!



「心が踊る♡」
「真央分かってるじゃないか♡」



「真央のマ●コは確かに臭い！」
「だがその濃厚な臭さは膣内の締め
付けを一度でも味わってしまえばもう
クセになってしまう♡」



しゅわんわんわん

ぽしゅ!

「あはっ♡」
「おしっこ出ちゃった!」
「ごめんなさい先生♡教職員
専用の屋上をおしっこで汚しち
やって真央は悪い子です♡」



♪ポトポト♡

「ああ真央は悪い子だな！」
「悪い子には何が必要だ？」

こぼれこぼれこぼれこぼれ



ぽたっぽたっ
。。。。

「悪い子には罰が必要だわ♥」
「先生の鋼鉄極太チ○ポで体
罰してください！」
「生意気な真央を精液漬けに
してください。」



ぽたっぽたっ
……

「きゃあっ♡」
「いいですわ♡強引な脱がせ方
最高ですー!」

カパツ!

はいはいううん♡

「なんだ先生♡」
「私の放尿で欲情してくれたん
です。ね真央も体罰されがいがあ
りますう♡」



あはっ♡

「早く！早く！先生の極太肉
棒体罰もう待ちきれません♡」
「早くオ●ン」に愛の指導く
ださい♡」



「あはん♡」
「擦られてる真央のクリちゃん
物凄いスピードで肉棒愛撫さ
れてるっ♡」



「先生！真央の淫乱マ○コ
が痛まないように気を使っ
て愛撫してくれてるの？」



あはっ♥

「それなら心配いらないよ真央は覚悟できてるもん♥」
「肉ヒダがいかりや長介みたいになってもせんぜん平気だよ♥」

ぴちゅっ♥

くちゅっ♥

わんっ
ちゅっ♥

しゅっ!
しゅっ!
しゅっ!

「それじゃあ遠慮なく!」

おん

ズッ
ズッ
ズッ



おん

「あーっ！きてる♥先生の鋼鉄肉
棒指導がドスンと来てる！」
「頭を鉛の棒で打たれたみたいにく
ラグラしてるっ♥」

ドスン
ドスン
ドスン

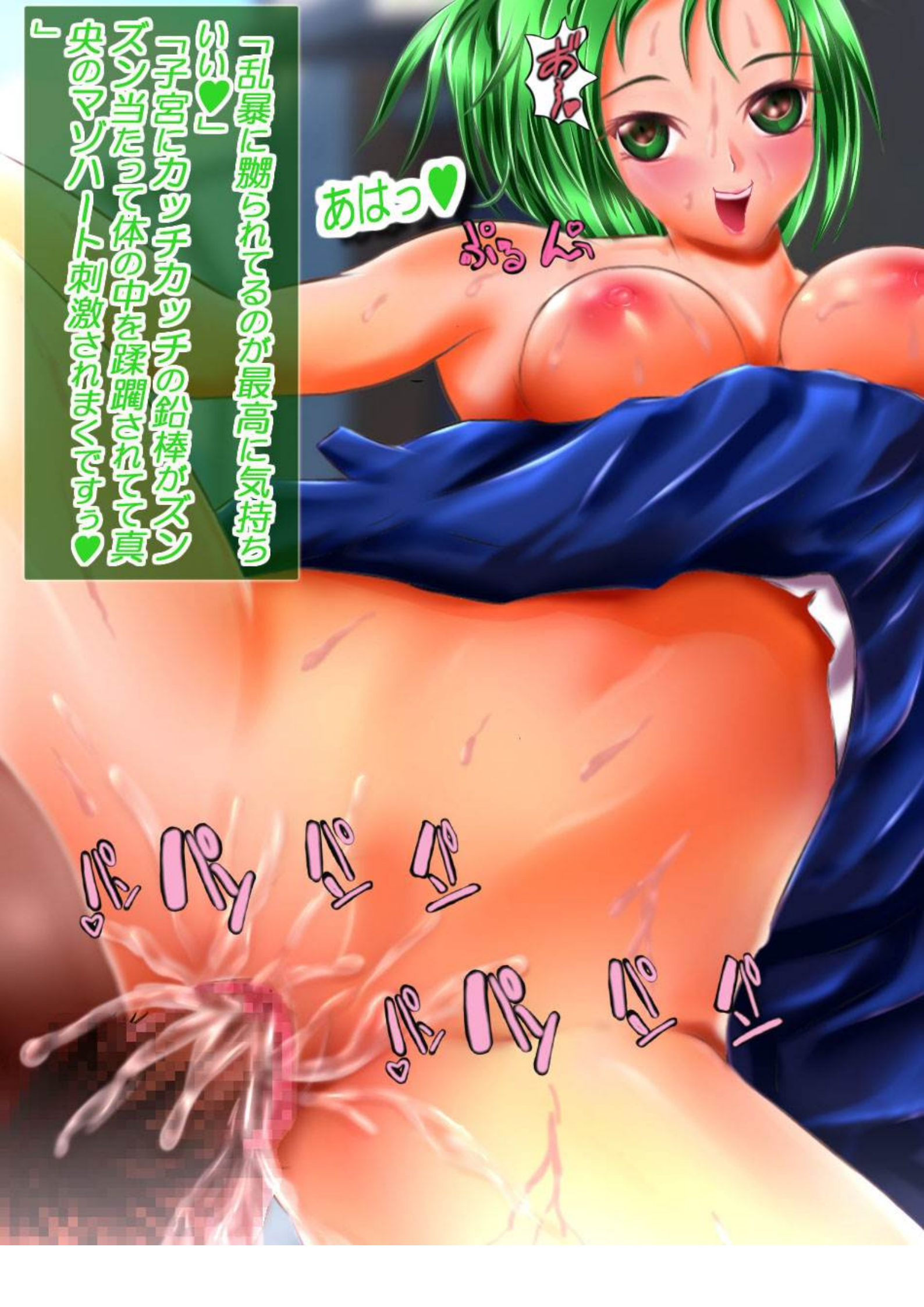
ぶろぶろおー！

「乱暴に嬲られてるのが最高に気持ちいい♡」
「子宮にカッチカッチの鉛棒がズンズン当たって体の中を蹂躞されてて真央のマソハート刺激されまくですう♡」

あはっ♡

ぷるん

あふ





あーん

あはっ♡

ぷるん

「これクセになるっ♡」
「尻たぶがパンパン打ち付けられる度
にキュアスプリングとしての自覚が
一つずつ消されて行くみたい。」

あーん♡
あーん♡
あーん♡
あーん♡
あーん♡
あーん♡



「えっ？そんな！」
「真央は良かれと思って・・・」

「一つ言い忘れたけどオ●ンコの肉ヒダが
イビツに変形した生徒に俺の肉棒指導は無い
と思ってくれ！」

ズツ
ズツ

ズツ
ズツ

ズツ
ズツ
ズツ
ズツ

「あぎやあつー！」
「そんないきまのいんなー！」

あふ

ぷるん

不安を感じた瞬間！膣の筋肉が一気に収縮し俺の肉棒をナラマズが大口を開けて飲み込むよう羊に締め上げた。吸い取られるとこういう表現が正しいだろうか俺は思わずビクビクツツ！と愛がいつぱい詰まった真央の柔らかいオ○ンコの中にたっぷりすぎる精液を吐き出していた。

あふあふ！
あふあふ！
あふあふ！
あふあふ！

あふあふ

「気持ちいい♥」
「全てがどついでに良くなる
くらい中出し最高!」



おん

おん

おん

ジュッジュッ

ジュッ

ジュッ

「どう先生？」
「私のクサレマ○コいびつ
な形になっても肉棒指導し
て頂けますよね♥」



んんん

んんん
んんん
んんん

んんん
んんん

んんん...

は
は
は
は



真央はいつまでも尽きることなく絞り出される俺の精液に
自分は特別だと言いたげな視線を送ってきた。
悔しいが5人のキュア戦士で膣圧を自在に操れるのは
彼女だけだろう真央のマ●コがどんなイビツになると俺
は愛しつづけるだろう。
それは認めざるおえない事実だった。



「悔しいが今回は俺の負けだ！」
「前言は撤回する！真央のオ●ンコは例外とする」❤️

は
は

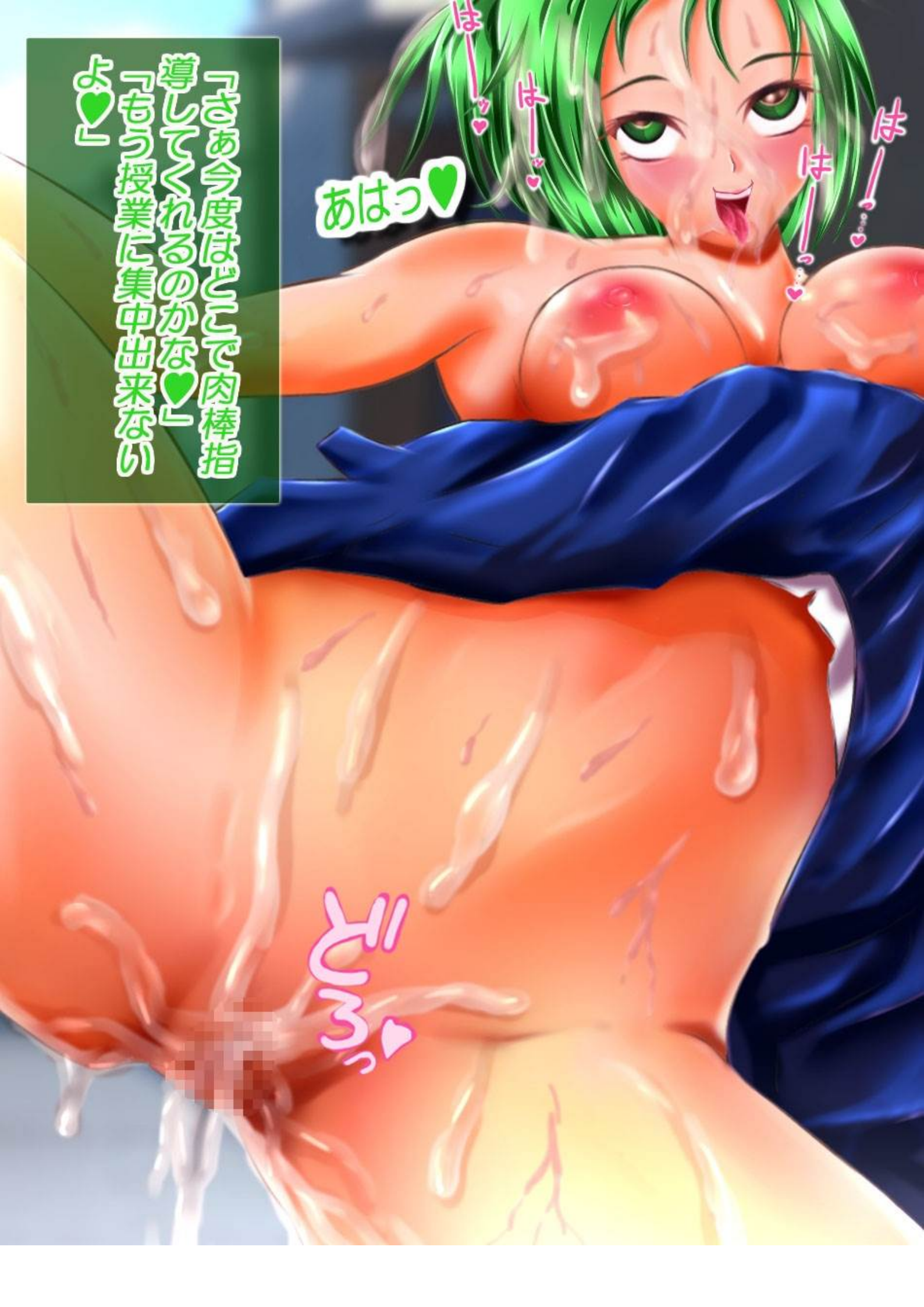
「だよねえ♥」
「それって真央のオ○ンコが
一番って事だよね♥」
「でも安心してどんなに使い込
まれても、だめだこりゃ！な
んて言わせないからね！」





あはっ♡

精液すけのあとけない笑顔が太陽に照らされて真央がまぶしくみえた。



あはっ♥

は

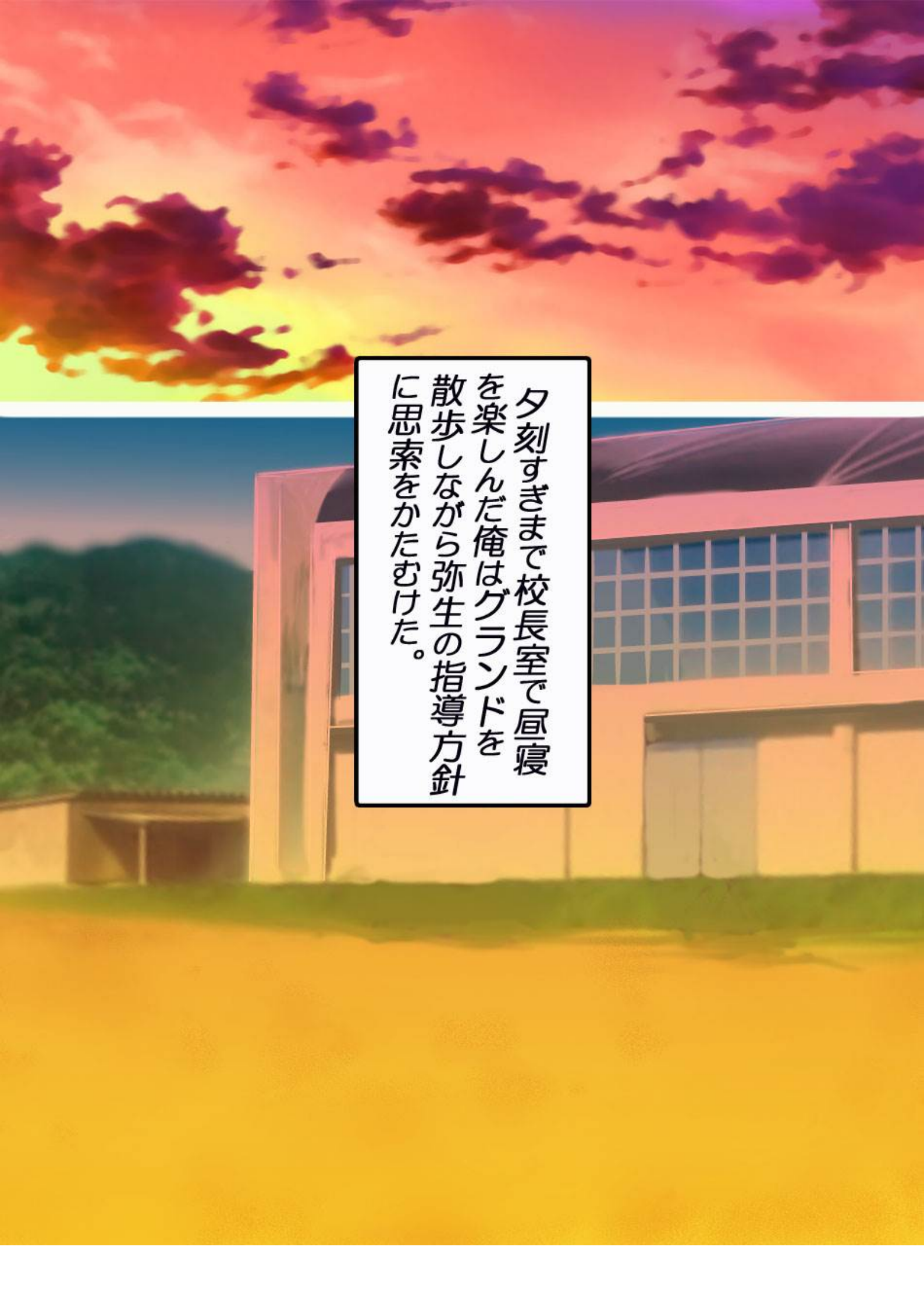
は

は

は

ジュン♥

「さあ今度はどこで肉棒指
導してくれるのかな♥」
「もう授業に集中出来ない
よ♥」

A sunset scene with a school building in the background and a speech bubble in the foreground. The sky is filled with vibrant orange and red clouds, and the sun is low on the horizon. The school building is a two-story structure with a grid of windows and a large entrance. The foreground is a grassy field.

夕刻すぎまで校長室で昼寝
を楽しんだ俺はグラウンドを
散歩しながら弥生の指導方針
に思索をかたむけた。

ロリ顔少女の乳首ピアス♡

繁華街で他のメンバーと楽しそうに
談笑している弥生をみつける。
随分リラックスしている。
俺の指導通りのパンティを穿いてい
る弥生に更なる指導を行う事にした。



あははっ

「校長先生強引すぎですー!」
「友達もみんな引いていましたよー!」
「みんなに先生の奴隷妻だってバレちゃうー!」

ドキドキ



「なんですか?」
「先生ずいぶん感情が荒れていますね。」
「ちゃんとこの精液漬けの下着で授業を受けていましたよ。」



リラックサスして談笑している弥生を
見て俺の歪んだ独占欲がムクムクと
湧き上がるのを感じた。
俺の険しい表情にこれから起こる
陵辱行為に怯えているようだ。

オドオド



ピクツ!

「乳首を見せてみる!」



「私もう逆らわないから、もう非道い事はしないで。」
「優しくしてくれたらもっと素直になれるかも。。。」

どすっ!

「直感でわかるようだ。。。」



「鍵付きのパンティだなんて・・・。」
「こんなの付けさせて何がしたいの？」

どすっ!

「お前はおれの物だ!」
「今日からお前はここで暮らすんだ
俺の許可なくオナニーも許さん!」
「もちろん外出もだ!」



「そんなことしたらみんなが心配するわ!」

どすっ!



「秋風 弥生の笑顔は俺だけの物だ。」
「お前が次に学校に来るときは妊娠
してぼて腹になっている時だ。」

「何を言っても、もう逃げられないのね。」



「今日は激しい調教になるぞ!」
「変身しておいた方が身のためだぞ!」

「しばしお待ちを。」

キュアオータムに変身して何時間たった
であろう。
何度も何度も、強欲な肉棒に貫かれている。
私はただキャンキャン泣いてただけだ。



「先生もう許してー!」
「痛くて痛くてたまらないんです!」
でも、校長先生は許してくれません。
変身していなかったら確実に気絶していたで
しょう。





あひいひい!

おん

は

は

は

は

ドン

ドン

「先生もう許してー!」
「痛くて痛くてたまらないんです!」
でも、校長先生は許してくれません。
変身していなかったら確実に気絶していたで
しょう。



は...
は...
は...

ゴキッ
ガキョウ

「乳首にピアスなんていくらなんでも
非道すぎる！やりすぎだよこんなの！」

「よし！奴隷妻の証を
刻みこんでやる！」

おやめあつー！

ブスツ！

ドク
ドク
ドク

おん

は

は

は

は



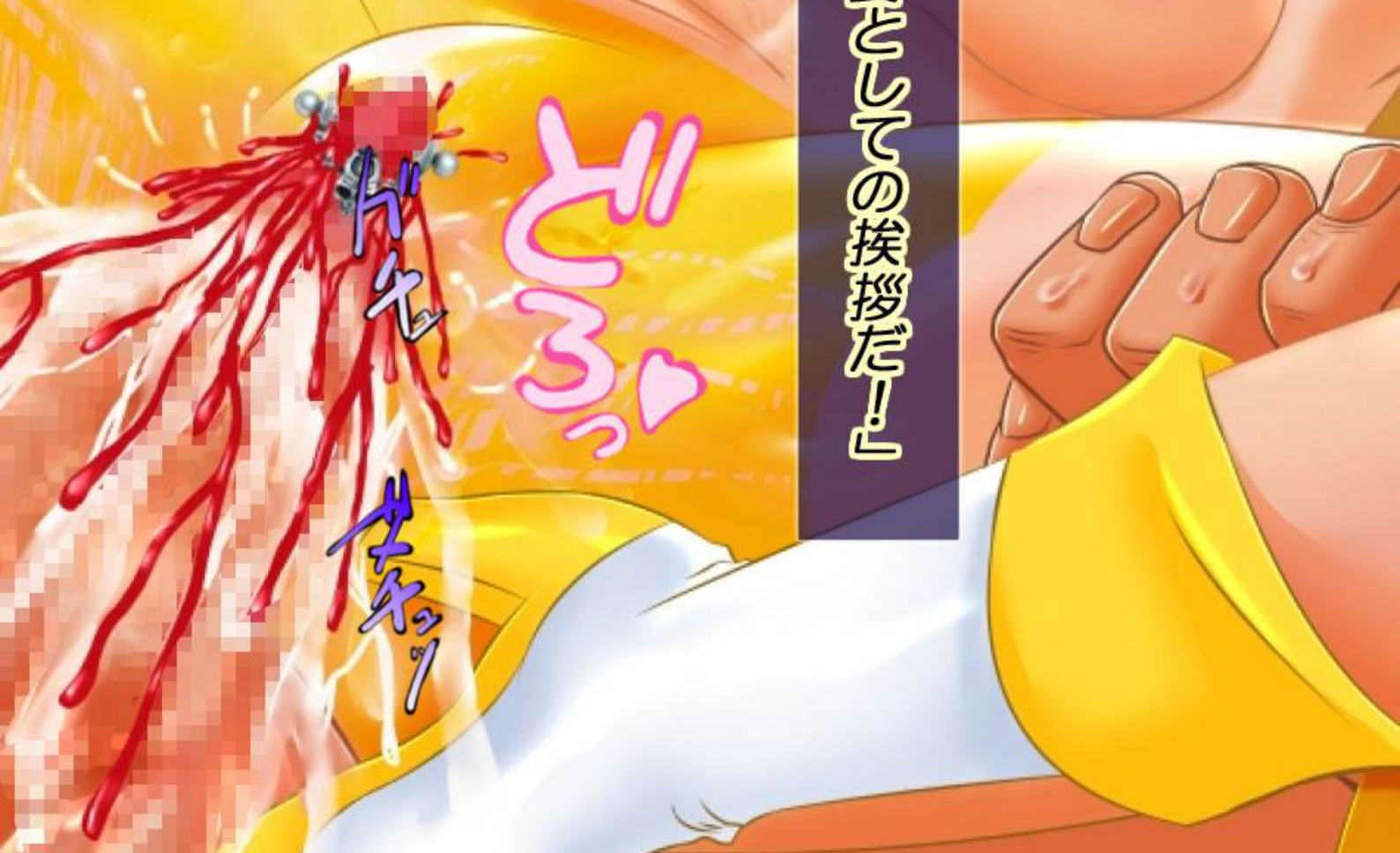
「痛いやら辛いやらで訳がわかんないよお！」



「ぐすん、ごめんなさい・・・」
「こんな素敵なピアスを装着して頂いて
ありがとうございます。奴隷妻として自覚
が持てました。」



「さあ奴隷妻としての挨拶だ！」





「よくがんばったな♡」
「ゆっくり休め。」

「先生の優しい配慮
とっても嬉しいです♡」

どろっ♡

グセ
サキョ

どろっ♡
どろっ♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

女の子だって変態行為は大好き♡

暑い日の午後9時30分

俺はキュアオータムを寝し付けた後
駅に向かった。
夜でも蒸し暑い目が幾日も続いてテアの俺
は少しいらだっていたが俺が指定した電車に
はじめが乗り込む姿が見えて暑苦しい感覚
は瞬時に消えていた。

「この電車・・・誰もいないけどこの電車
でいいのかしら?」
「どこににいるのかしら校長先生?早く来て
くれないと私・・・」
「あっあくっ!あっん♥」



はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

「なんだか怖いわ。。。」「はあ、はあ、はあ♡」

ういん
ういん
いん!

たが たが

「がっちはりはめ込まれた2本の
パイプが気持ちよすぎて気を
失いそう。。。」

ういん
ういん
ういん!

ゴキ

たに たに

サキョウ

たが

ゴキ

サキョウ

「ようっ！はじめ♡」
「随分気持ちよさそうなの顔してるな♡」

「ああんっ先生！」

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

ういん
ういん
いん！

たが
たが

ぱん

ぱん



「おひささん、
ちびっちゃんさー！」

ういん
ういん
ういん！

ゴキ

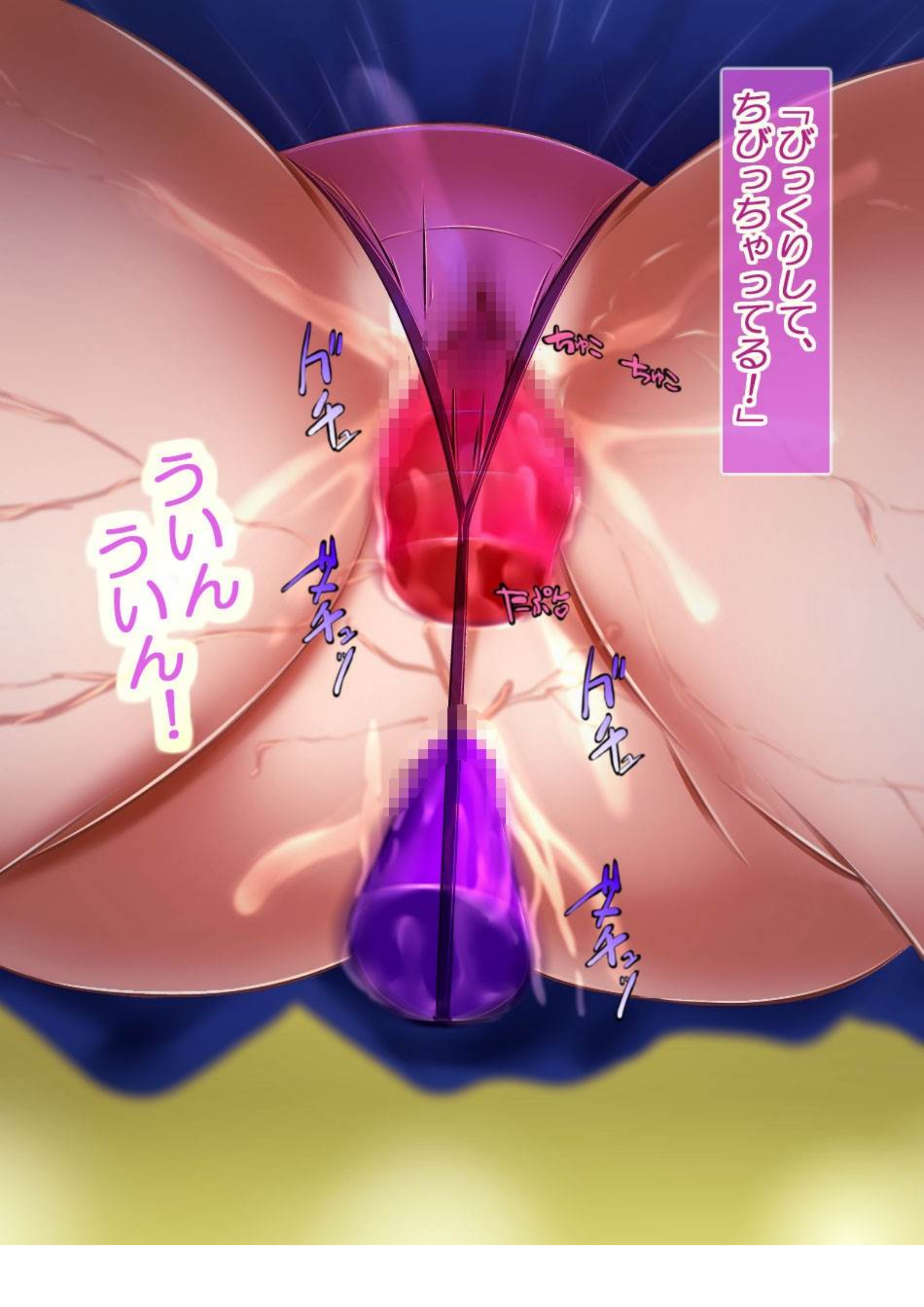
たか たか

サキ

たか

ゴキ

サキ



「なんだあ？」
「お前ちびってんじやねえか随分
気に入ったんだな！」

「勝手なこと言わないで！」
「こんなの迷惑だよ！」

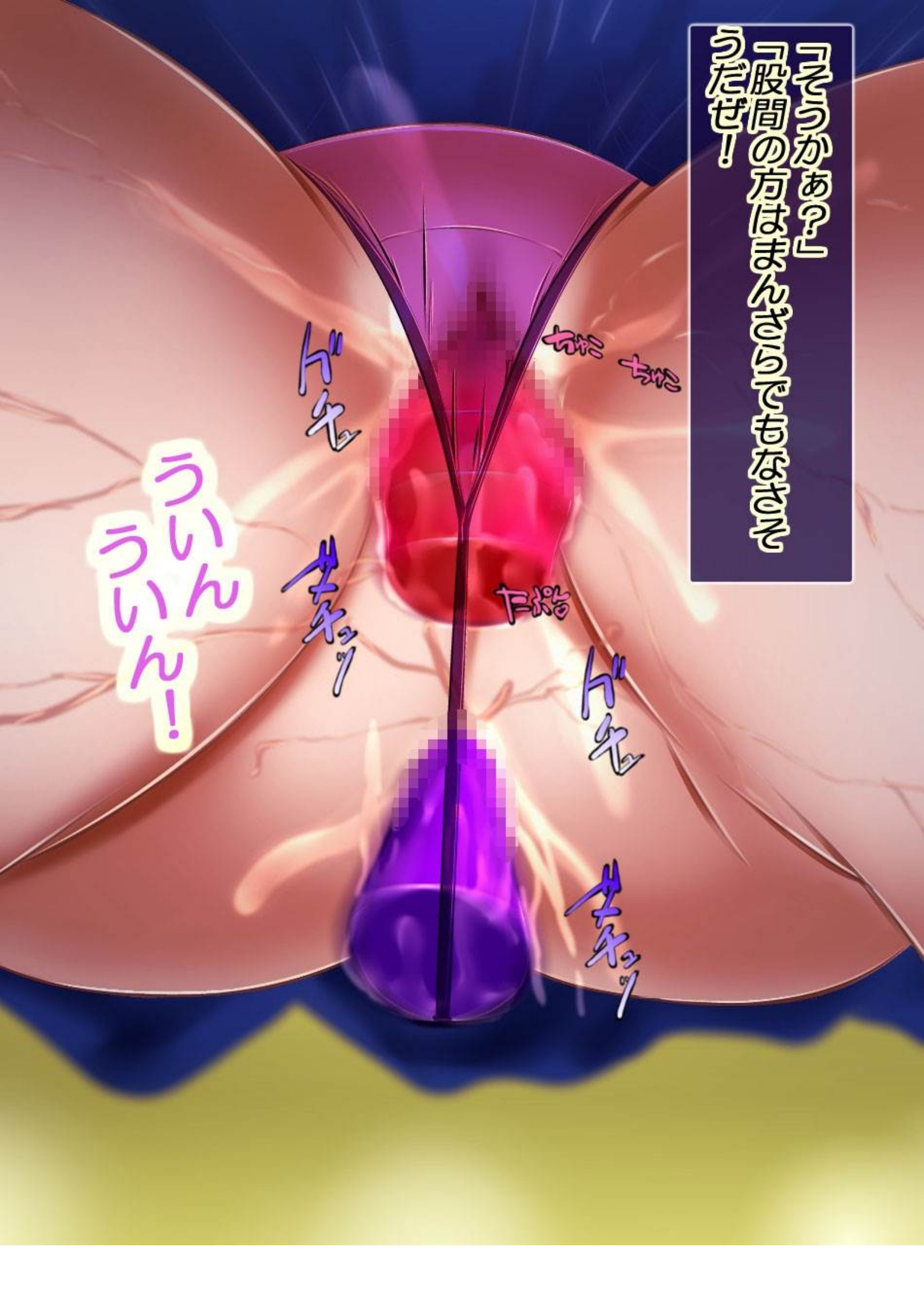
は
は
は
は
は

ういん
ういん
ういん!

ちび
ちび



「そっかあ?」
「股間の方はまんまのらでもなをぞ
うだぜ!



ういん
ういん
ういん!

ゴキ

たか たか

サキョウ

下が

ゴキ

サキョウ

「そんな事ないわ!」
「絶対そんな事ない!」



ういん!
ういん!

たが たが

は

は

は

は

「さんざんアへりあげてまともな女
ぶってんじやねえよ!」
「いい加減素直に自分が快樂を貪る
変態だつて認めちまえよ!」

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

ういん
ういん!
ういん!

ちが
ちが



「そんなに強くしないで！」
「もう我慢出来ない♡」
「イクッ！イっちやう！」
「どんじやうよおおおおっ！」

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

ういん
ういん
ういん!

ういん
ういん
ういん!

たが たが



「あぎゃあああああつー！」
「イツちゃった♡アクメ気持ちいい！」



はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

ういん
ういん!

ういん
ういん!

びしゅっ♡

「いいぞ！素直なお前にご褒美だ！」
「これでも喰らえ！」

「じゃあお前さん

「ああっ♡先生のご褒美最高♡」
「これくらったら逆らえないいい♡」

ずびりー!

ズビ
ズビ
ズビ

「よしっ！俺の精液の味を体で憶えてお
けよ♡」

どきどき♡

「はいっ！肝に銘じておきますっ♡」
「ああ♡はじめはとっても幸せですっ♡」

「よしっ！また」しを付けて生活している！」

「今日もまた先生の熱心なご指導あり
がとうございました♡」

はっ……♡

はっ……♡

はっ……♡

はっ……♡

ぽたっ……ぽたっ……



その後、
私がなにをされたのか憶えて
いない。。。。。



「これが私たちと校長先生の
馴れ初めですう♡」



「これから私たちが元気い
っぱいハメられたおします
ううう♡」



キユアオータムからの追伸♡

ぷるん

は

は

は

は

「みんなげんきですか？」
「私はとっても元気です♡」

下下下

おはよう

おは



「毎日、毎日、朝も昼も夜もこの強欲鋼鉄肉棒でガツチリハメ込まれて幸せな毎日を送っています♥」
「どう？」
「ピアスも素敵でしょ♥」

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん



「ああんだめ♡」
「感じる!感じるわあ♡」
「また来るわ!」
「いいっ!いいですう♡」

ああん
ああん
ああん



あひいひいひいっ!

おっぱい
おっぱい
おっぱい
おっぱい
おっぱい
おっぱい

あひいひいひいっ!

WUJIAN!

ひん びん



ひん

ひん

下下下

下下下

ひん

ひん

ひん びん

「ごめんなさい先生!」
「私だけ先にいっちゃんいま
したあ♥」
「ワガママな私を叱ってく
ださい!」

おん

は
は

おん
おん

おん
おん

おん
おん
おん
おん

おん
おん
おん
おん

おん
おん





おほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

「あーっ♡良かったあ♡」
「先生にも満足して頂けて
安心しました♡」



ズン

ズン

ズン

うまうまふんふん

「どおっ?」

「見える中出し精液どんどん溢れてるところ♥」

「この精液でお腹こんなに張っちゃってまーす♥」





おまじない

おまじない

おまじない

おまじない

おまじない

おまじない

おまじない

おまじない

おまじない

おまじない



「あーっ♡気持ち良かった♡」

JK戦士無残に敗北

起き抜け

BADモーニング2

END

ARION CANVAS

女の子だとして気持ちのいいJK大好き♡